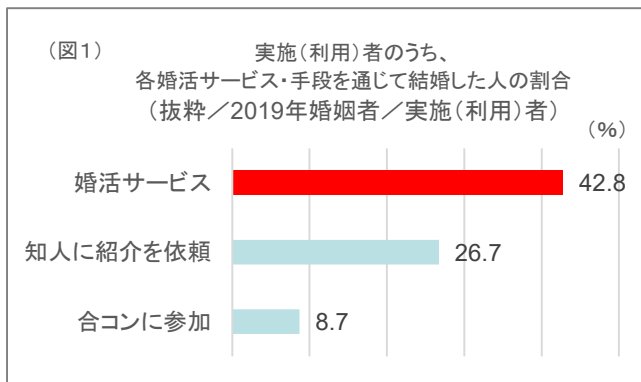


■ 婚活サービスの市場は合理性を軸に今後も活性化へ

2019年婚姻者のうち、婚活サービスを通じて結婚した人の割合は過去最高の13.0%に達しました。2013年以降増加傾向にあり、昨年に引き続き過去最高を更新しています。また、恋愛もしくは結婚意向がある恋人のいない独身者において、婚活サービスの利用経験割合も25.5%と、調査開始以降最高になっています。結婚意欲をベースに、ターゲット層の合理的な志向にもフィットし、婚活サービスが浸透。さらに、周囲に利用者や成婚者が増えたことによる心理的ハードルの低下や、ネット系婚活サービスが浸透したことで、今後も活性化が見込まれます。特に、着目しているのはこのサービスの合理性で、今後も活性化する大きな背景になるとみています。

① 合理的で効率的な手段

2019年婚姻者の中で、婚活サービス利用者の42.8%が婚活サービスを通じて結婚に至っています。利用すれば4割以上が結婚できているということです。他の手段と比較すると、例えば、友人に紹介を依頼した場合でも26.7%、合コンは8.7%と、比較しても婚活サービスの結婚に至る割合が高いことが分かり、非常に効率的な手段と言えます（※図1）。これらの理由として、利用する際、お互いに結婚という明確な目的を持ち、コミュニケーションにおける曖昧性も少なく、かける時間も効率的になることがあげられます。さらには、相手に求める条件を意識しながら相互に評価をすることにより、条件をすり合わせる期間が短く、また、自身のコミュニティとは外れていることにより煩わしさもなくなることなどが考えられます。



② ネット系婚活サービスの伸長

婚活サービスを通じて結婚した人の割合の中でも、結婚相談所、婚活パーティ・イベントを抜き、ネット系婚活サービスが最も割合が高くなっています。また、独身者のネット系婚活サービス利用経験割合においても、2016年の9.8%から2019年は19.1%と伸長し、全体を大きく底上げしています。これは、20代だけではなく30代、40代においてもスマートフォンが普及し、あらゆる場面で活用されたことにより、そのリテラシーが上がったことはもちろん、婚活という選択する場面において、自身の志向や条件をテクノロジーを通じて合理的、効率的に活用できる仕組みが大きな背景にあると考えます。もちろん、結婚相談所は独身証明書が提出必須になっている安心感や、あるいは婚活パーティはリアルに多くの対象者と会え、自身のコミュニケーションスキルも上げられるなど、それぞれの特性がありますが、特に、ネット系婚活サービスは、時間を有効活用でき、1度に多数の人とコミュニケーションをとることができるため、今の婚活世代にフィットしているのでしょう。

■ 新型コロナウイルス感染症拡大がもたらした影響

一緒にいて楽な相手、相手への尊重がキーワードに

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きかった4・5月の数字をみると、約7割が利用を継続していたことから、婚活サービスの利用への影響は限定的でした。その背景には、不安定な世の中で「絶対的な存在」や「絶対的な味方」を欲しており、長い時間軸での拠り所を求めていると考えています。実際に、以前から恋愛・結婚意向のある独身者(※1)の4割が結婚への意向が高まっており、緊急事態の中で将来を考え、誰とどのように過ごすかを考えたと言えます。そして、今後もしばらく不安定な状況が続く中、婚活サービスを活用しながら、「絶対的な誰か」を求めた活動は活性化していくと捉えています。

(※1：恋愛もしくは結婚意向のある婚活サービス非利用独身者および2020年3-5月間の婚活サービス利用実績のある独身者)

一方、緊急事態宣言やステイホーム推奨の中で、自宅で過ごすことが増えたことによる結婚に対する価値観への変化も見えました。パートナーとの心理的、物理的な距離感です。新型コロナウイルス感染症拡大をうけて重視するようになった結婚相手に求める条件を見ると、「パートナーとの距離感」を示す項目を重視していることが分かりました。これは、これまでになく長い時間を自宅で過ごす人が多かった中で、結婚後の生活も想像し、改めて結婚相手への条件を考える機会になっていたことが影響しているのでしょう。また、新しい生活様式の中で、どんな相手となら二人きりで長い時間を過ごしてもストレスを感じずに楽しく穏やかに暮らせるのか、そして、お互いの時間を尊重しながら生活できるのかを考え、確認した機会だったと言えます。



リクルートブライダル総研 所長 落合 歩(オチアイアユム)

メーカーの宣伝部を経てリクルートに中途入社。2019年よりブライダル総研所長に就任。未婚者の動向から結婚・結婚式、夫婦関係に関する調査、研究、提言を行う。テレビ、新聞、雑誌などメディア取材、寄稿および講演多数。